

第5回 ショートレター入選作品

《最優秀賞》

タイトル 「12歳の孫、愛^{めぐ}へ」

『ばばあ～邪魔なんだよ』そう言ってお年寄りを突き飛ばした女の子に愛^{めぐ}は『謝りなさい』凛として言いました。乗客の視線を浴びて、その子は慌てて電車を降りたけど、もし愛^{めぐ}が言ってなかったら……。ありがとう愛^{めぐ}！

《 優 秀 賞 》

タイトル 「子ども（娘、のんちゃん）へ」

目の不自由なお母ちゃんでごめんねと言うと お母ちゃん
の目が好きと言う。見えないよと言うと 澄んでてキレイと
言う。娘のキレイな心に涙が溢れた。今は胸を張って言える
あなたのお母ちゃんですら本当に良かったと。

《 優 秀 賞 》

タイトル 「父と母へ」

いじめに遭った11歳のあの日を覚えていますか？怒りで
身体を震わせてくれたこと。この世界で自分を無条件に守っ
てくれる人がいる。今でも私は思います。こんな有り難いこ
とってあるだろうか、と。

《佳作》

タイトル 「娘に」

あなたがどんな国の人とでも、好きなら結婚してもいいよ。
しかし、子供が差別されることがあったら、断固戦いなさい。
父さんも母さんも最後まで一緒に戦うよ。

《佳作》

タイトル 「息子（25歳）へ」

覚えてる？父の日の絵が描けなかった悲しさを。覚えてる？
母子家庭では月謝が払えまいと、大学の面接官に言われた悔
しさを。数々の試練を乗り越え、貴方が強く優しい青年に育
ってくれた事が、私の喜びであり誇りです。

《佳作》

タイトル 「無題」

命ある全ての生き物は人権と言う二文字を生涯、背負い人
生のゴールを目指す。誰も知らない宇宙の果てに棲む神様が
平等に授けた贈り物。瞳、肌の色、言葉が違ってても人権は世
界各国、共通だから戦争のない平和な社会を

《佳作》

タイトル 「夫 へ」

「母さんはボクの大事な彼女なんだから、あんまりこき使うなよな。」と子供達に言ってくれた、あなた。うれしいよな、はずかしいよな・・・ありがとう、あなた。

《佳作》

タイトル 「ばあちゃんへ」

夜勤明けの朝。疲れた私の目の前に、温かいご飯をよそい、放った荷物の中から洗濯物を出し、仕事のグチを聞いて、眠りだした私に布団を掛けてくれる。介護士である私を介護しているのは貴方です。いつもありがとう。

《審査員特別賞》

タイトル 「おかあさん」

「おかあさん」自分のことを貴方はそう呼びます。それは、
^{わたし}子供のために用意された呼び名一。おかあさん、わたしも
二十歳になりました。どうぞ、使ってください。「わたし」
それが、少し背伸びした娘^{わたし}の願いです。

《審査員特別賞》

タイトル 「幼なじみの友人へ」

みんなから仲間はずれにされてた時、「通り道やから」と、
あなただけは一緒に登下校してくれたよね。特に慰めるわけ
でも励ますわけでもなく・・・でも、それが不器用なあなた
の優しさだったこと、私、気付いてたよ。

《入賞》

タイトル 「亡父へ」

嫁ぐ朝、たった一言「風邪ひくな・・・」とポツリ、父さんが言ってくれた。淋しそうな父さんだった。来世、生まれる時も、不器用で世渡り下手な、父さんの娘として生まれたいと思っています。

《入賞》

タイトル 「無題」

笑うと目尻が下がって、しわくちゃだけどすごく暖かい手。私の大好きなおばあちゃん。いつも笑って私の話聞いてくれるよね。友達みたいな関係。ずっとおばあちゃんの笑顔を見ていたいから、元気に笑っていてね。

《入賞》

タイトル 「自分の祖母へ」

どんな時代に生まれても悪習に染まらない人がいる。土地柄や時代のせいでもない。夫の祖母は田舎だから、昔だからという理由で人を差別することを許されていました。お婆ちゃん、貴方はしなかった。貴方は誇りだ。

《入賞》

タイトル 「母」

最近、あなたの背中がすごく小さく見えます。僕が今、生きているのはあなたがいたから。あなたの強さ。やさしさ。小さくなった背中。僕という人間に多くを費やしてくれた時間。母さん、ほんとにありがとう。

《入賞》

タイトル 「父 へ」

父が再婚したいといった時、十五歳の私は、「嫌だ、嫌だ」と叫んだ。永い看病の末、母を亡くして、男手一つで頑張り続ける四十二歳の父に何と惨いことを言ったものか！言葉の消しゴムを持って、あの時に戻りたい。

《入賞》

タイトル 「一人っ子の一人娘へ」

「苦労ばかりして、かわいそう」なんて言わないで。そんな風に見えるかもしれないけど、母はこの人生、けっこう気に入ってる。母の心にはささやかな「幸せの花」が一杯咲いてるよ。あなたに見せてあげたい。

《入賞》

タイトル 「十九歳の時に出逢った『愛するたった一人の養父へ』」

^{どうもう} 獰猛な犬がいた。誰にでも咬^かみつき、威嚇^{いかく}をする。その犬が一人の人と出逢い、人なつこい犬へと変わった。私は、《接し方次第で、相手も変わる》ということを知った。その^{どうもう}獰猛な犬とは、十九歳の私だった。

《入賞》

タイトル 「親 父 へ」

無口な親父が不良だった俺を叱ったのはたった一度、俺が兄貴を殴った時。そのくせ「子供の心をつかめ」と俺が言ったことを真剣に受け止めてくれたね。俺を信じていたと判った時には親父はもういない。悲しいよ。

《入賞》

タイトル 「先生へ」

卒業するその前に先生が私に言ってくれたこと、「あなたの笑顔は素敵だよ」あの言葉があったから、今でも私は笑顔でいます。本当にありがとう。

《入賞》

タイトル 「おじいちゃんたちへ」

クリーンキャンペーンってけっこうすきだよ。ゴミをひろって持って行くと、ありがとうって、おじいちゃんたちがほめてくれるんだ。わたしからも、おじいちゃんたちいつもありがとうね。またがんばるね。

《入選》

タイトル 「みんなへ」

いつもだれかをいじめていたなら、いつかきっと自分もつらい目にあう。だから相手の気持ちを分かってあげて、自分の気持ちも大切にしよう。みんながそうしていれば、この世界はいつも平和で楽しくなれる。

《入選》

タイトル 「祖母へ」

真夏に、汗を滝のように流して作った野菜を、いつも娘や近所の人にあげていたお婆ちゃん。「人に喜んで貰える事が幸せ」って言ってたね。私今、その気持ちがよく分かる。大事な事を教えてくれてありがとう。

《入選》

タイトル 「息子の航大へ」

毎日のお散歩の中で触れる自然。歩いていく虫をじっと観察し、咲いている花を手の平で優しく撫で、飛んでいく鳥をどこまでも目で追う。そんな生活の中から人を大切にし、人と丁寧に接する気持ちを育てていってね。

《 入 選 》

タイトル 「遠くで働く娘へ」

あなたの施設のみんなは、元気になっていますか？かつては家族の為に、一生懸命働いてきた人達です。過食症で苦しんできたあなただからこそ、できる仕事だと思っているよ。そんなあなたをお母さんは誇りに思います。

《 入 選 》

タイトル 「お父さんへ」

日本で、韓国人として生きる事。過酷で時には残酷で大変だったでしょう。映画やドラマを通して、日韓の交流が盛んになっています。しかし避けては通れない歴史を基盤に「人権」を考える上で話をしてください。

《 入 選 》

タイトル 「恋 人 へ」

外国人だからとバイトもアパートも断られた君は、肩を落としてうっすら涙を流していた。君の背中が悲しくて、そっと抱いた。初めて自分の国を、心底恥ずかしいと感じたんだ。

《入選》

タイトル 「祖母へ」

『僕の命に意味を与えてくれた貴女へ。僕を創っただけの親とは程遠く、貴女は決して見返り求めることなく、弱き僕を変わらず愛してくれた。今もこうして僕が誰かを想えるのは、最初に貴女がいてくれたから。』

《入選》

タイトル 「悪友へ」

〇 K町を歩いたのは五十年ぶりだね。海も山も街も、タイムスリップするには変わり過ぎていた。でも、商店のウィンドウには、在日と日本の半ズボンの漬垂れ小僧が映っていたような気がして懐かしかった。また会おう。

《入選》

タイトル 「お父さん」

家族のために、二十九年も同じ仕事を続けている姿は、立派だよ。3Kのつらさに負けずに働いているそんなお父さんが、私の自慢です。これからも、無理しないでね。

《入選》

タイトル 「小学校時代の友人へ」

目の色が茶色で、ずっと上級生にいじめられていたボク。でも、キミが言ってくれたんだ。『わたし、あなたの目好きよ。優しい目なんだもん。』まわりの声に惑わされない、キミのまっすぐな心がボクに勇気をくれた。

《入選》

タイトル 「無題」

幾度も上京しては挫折の私。そんな都落ちした無人駅で、家に入れずウロウロしていた私を見つけた母が「すきやきのネギと豆腐買って来て。それと、ビールと」と千円札を握らせた。「母ちゃん…ありがとう」

《入選》

タイトル 「骨折した日雇の夫へ」

骨折して日雇に出られなくても心配しないで。私が昼も夜も掃除婦として働くから。長い人生には有勝ちなこと。今迄何もなかったのは不思議なくらいよ。あなたがいるだけで幸せ。持ちつ持たれつ頑張りましょうね。

《入選》

タイトル 「名前も知らないバス停の人へ」

私が毎朝通るバス停に、毎日座っている人がいる。雨の日はかさをさして、ベンチに座っておられる。ひかり園の姉妹園の送迎の車がむかえに来ると笑顔で車に乗りこんで行く。素敵な笑顔ですね。お仕事頑張ってください。

《入選》

タイトル 「お母さんへ」

学歴がなくても社会に出てからが勝負だと言っていたお母さん。いくつものくやしさを乗り越えて働き続けてきましたね。相手を思いやりながら生きる姿、私の誇りです。

《入選》

タイトル 「母へ」

あなたの信じる生き方を押し付けないでください。あなたが信じない生き方を否定しないでください。人間がみんな平等なら、一人一人が信じることだって、それぞれ平等に正しいはずじゃありませんか？

《入選》

タイトル 「息子へ」

心配性の私は、あなたに電話でなくメールをまめに送るけれど、いつも返事はなしで、届いているんだか気になることもあります。親だから、返事は一番後まわしていいけれど、たまには私にひとこと元気を伝えて下さい。

《入選》

タイトル 「おじいちゃん」

おじいちゃん、あなたがどんなにぼけて、僕のことを忘れてしまっても、僕はあなたの側にいます。誰もがあなたを見放しても、あなたは僕のおじいちゃんという一人の人なのだから、僕はずっとあなたの側にいます。

《入選》

タイトル 「自分へ」

人権とは？そう、人が生まれながらに持つ物である。しかし、それらを与えられない人も世界にはいる。私はとても恵まれている。私はその人の分までもがんばれる人間になりたい。

《 入 選 》

タイトル 「友 達」

いつも私を笑わせてくれてありがとう。私が闇の中にいるとき、光を照らしてくれるのはいつも友達であるみんなだったよね。私たちの人生はまだまだ長い。共に助け合いながら生きていこう。同じ人生の旅人として。

《 入 選 》

タイトル 「子ども達へ」

「人は鏡」（嬉しい、嫌だと感じた時は相手も同じことを感じている）これがママの座右の銘。いつも相手の立場に立って行動し、たくさんの人や友達に「嬉しい」をわけてあげられる優しい人に育ってくださいね。

《 入 選 》

タイトル 「先 生 へ」

「頑張って、一歩踏み出したら、電車に乗っちゃったら、もう、勝手に運んでくれるし。」学校に居るのが辛かった時、言ってくれたこの言葉、忘れません。この言葉があったから今、私はいられるような気がします。

《入選》

タイトル 「中3の娘へ」

あなたがクラスの隅っこにいる子のこと、いつも気にしているの知っているよ。先生は知らなくても、おかあさんには見えているよ。家では怖い顔で反抗ばかり。でも、心の奥にあるやさしさは誇り。そこが大好きだよ。

《入選》

タイトル 「母へ」

間接リュウマチを患い、指先が不自由な中、作る味噌汁。箸で具の野菜を摘むと、まさに雑切りで、これこそ心の隠し味。「これくらいしか出来ねえ」と言う背中に、感謝して「頂きます」と頭を下げる。

《入選》

タイトル 「姉へ」

おのれの運命を不憫だと嘆いてばかりいる僕を、姉ちゃんだけは叱咤激励してくれる。精神病で働けなくなって、文章ばかり書いてる僕に手紙をくれる姉。最後の行の、「遠い空の下の隣人より」という言葉に、感涙。

《 入 選 》

タイトル 「おばあちゃんへ」

13歳の時から『祖母』ではなく『母』として私を育ててくれたおばあちゃん。自分の病気そっちのけで面倒を見てくれて本当にありがとう。そしてこれからもよろしくね。何時までも元気で…。

《 入 選 》

タイトル 「無 題」

僕が就職したとき、小包の山菜の隅に、あれほど覚えるなと言っていたタバコのハイライトが十個。その下に狂うほど好きだったビートルズのレコードが三枚。かあさん、涙が溢れました。ありがとう…。

《 入 選 》

タイトル 「お母さんへ」

体のあちこちを傷めながらでも、「痛い」という言葉を言わずに仕事をがんばってくれてありがとう。そんなお母さんを見て、とても誇りに思いました。これからもがんばってね。

《 入 選 》

タイトル 「お母さん」

うちを産んでくれたお母さんちゃうな。最初は「お母さん」って認めてへんかった。けど今ではもう「お母さん」って思ってるし大好きやで！これからもお父さんと仲良くしてや。それでこれからもよろしく！

《 入 選 》

タイトル 「母 へ」

母さんの生き方、この目でずっと見てました。人を大切にする事と一生懸命働くことの実行は、私達子供のお手本でした。お陰様で身についた習性は、人生の糧となり何程役立ったか分かりません。心から感謝しています。

《 入 選 》

タイトル 「小学校の担任森先生へ」

うどん屋のよし君も、酒屋の徳ちゃんも、孫ができたって。僕も含めて悪ガキ三人、それぞれ頑張っています。勉強はできなんだけど、先生の言うとおりに、生きるっておもしろいぞ。まあ、ええかげんかもしれんけど。

《入選》

タイトル 「母 へ」

父が事故でこの世を去ってからというもの、一人で兄弟二人を育ててくれてありがとう。苦勞した分、楽しいことも待ってるはずだから、もう少し頑張る。そうしたら、僕がその楽しみを何倍にもしてあげるから。

《入選》

タイトル 「祖 父」

今でも心のぬくもりを感じます。ずっと優しく私を見守りつづけてくれた笑顔は私の心の中にずっと生きつづけています。私はこれから悔いのないように人生を送っていきます。ずっと見守っていてください。ありがとう。

《入選》

タイトル 「大切なみんなへ」

うちは助けてほしい時、友達に電話する。メールする。家族に相談する。疲れてる時こそ友達に会いたって思う。家族といたって思う。それは皆が好きやから。これからもよろしく！いつもゴメンね、ありがとう。

《入選》

タイトル 「父 さん へ」

父さん、いきなり怒るなよ。いつもちょっとしたことで怒るけど、そういう父さんどうなんだよ。自分のこと棚に上げて怒る父さん嫌なんだ。人の話ちゃんと聞いて、いつも笑っていてほしい。